



祥洲

Leicaで撮る東寺と、空海を書す / 祥洲 PDF作品集

無量徳















八島











天翔











信







碑 是 家 庭 之 頂

大正十一年
五月二十日
...



大正十一年
五月二十日
...



偶遇
 能得
 文殊
 暑再
 宗讀
 受持
 記乃
 此等
 土隨
 之不出
 普濟
 於西
 遂乃
 三藏
 陀羅
 之深
 回祿
 大師
 模寫
 字別
 所施
 一而
 聖廟
 生俱
 大恩
 行字





奉納
南無大師遍照金剛

奉納
南無大師遍照金剛

修行大師さんには
お花をさげます



本作品集は、「舞」(舞踏:岡佐和香+写真と書:祥洲/2017年発表)に続く、PDF形式のデジタル作品集です。

仕事場である祥洲書院/墨翔会京都教室から徒歩5分程のところに、嵯峨天皇が弘法大師空海に託した日本で初めての密教寺院、世界遺産「真言宗総本山 教王護国寺 東寺」があります。仕事場から天候や雲の形を確認してから出かけられるという地の利を生かして、ライカ製カメラで撮影を続けています。

振り返れば、19歳から本格的に学び始めた写真も44年目。これまで一貫して女性を撮り続け、代表的な写真作品は中国黒龍江省美術館 収蔵作(2001)の「痕跡と変容シリーズ」。そして今回が初めての風景写真集になります。

写真の明るさを決定する露出は手動設定。それは書における墨色設定と同じです。濃墨か淡墨かはコントラスト、滲みは光やボケの広がり。目指すは私ならではの書的な写真表現なのです。

そして最後に。日本書道の祖でもある空海に憧憬する私の拙い書も収録いたしました。写真と共にご覧ください。

2021.5.21 祥洲記

祥洲

祥洲 /Shoshu

6歳から書を学び、立命館大学在学中の19歳で書家デビュー。伝統書のみならず独自の墨美表現を次々に発表、現代の書の先端を走り続ける書家の一人。日中韓など五カ国共催展や美術館展、国内外での受賞多数。小学校図画工作教科書に作品収録、「伊勢神宮」「日光東照宮」奉納書、「メルセデス・ベンツEクラス」「アディダス×EXILE/HIRO」などのCM、「NHK大河ドラマ/軍師官兵衛」「AKB48」などの題字でも知られる。2019年には「フェラーリ/Ferrari」公式映像に出演、世界公開される。書のみならず、デジタルアート、写真、映像などジャンルを越えて活動。墨翔会主幹、墨集団翔Sho主幹、SHO Art-Office代表。日本デザイン書道大賞審査員など。1958年京都市生まれ、京都市在住。



撮影機材 ↑FUJIFILM X-Pro2+XF60mmF2.4R Macroにて撮影
Leica M-P (Typ240)+SUMMICRON-M 50mm f/2 沈胴式1956
Leica Q (Typ116, SUMMILUX 28mm f/1.7 ASPH)、+Leicaレンズ数種
書作品 用具
狼毫小筆、奈良墨+祥洲自家製墨、中村硯(初代一水作)、和紙
文字サイズ 約2.5~4cm、一文字書 約7cm
※背景写真はカメラではなく中国の想像上の動物、麒麟(ひいき)で、竜の子。重い荷を背負うことを好み(本書収録の石碑を背負っています)、万病平癒の御利益があるとされています。

祥洲 公式サイト
祥洲の墨の世界
shoshu.jp

写真+書+制作:祥洲
2021.5.25発行 ©Shoshu2021

